

サッカー文化と国の発展の相関

—日本とオーストラリアに着目して—

八木 譲治 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 松田 保

キーワード： サッカー，文化，相関

1. 緒言

サッカー文化と国の発展の相関を調べるにあたり、自分自身の出身国である日本だけではなく、オーストラリアにも着目したのは半年前に約8ヶ月の短期留学で、オーストラリアに行ったことが大きく関わっている。留学に行った大きな目的として、2つの目的が挙げられるが、その1つがオーストラリアのサッカー文化を体験することである。実際に留学先のサッカー文化を肌で感じることで、今まで以上にサッカーのあらゆる面に対して深く考えるようになった。現代に至るまでの歴史、多民族で形成された国家、親しみやすい国民性などであり、国とサッカーの文化がどのように結びつき、相関しているかについて強く興味を持った。

2. 研究方法

文献調査を行う。日本とオーストラリアのサッカー文化に着目する。文化とは、「人間が自然に手を加えて形成してきた成果のこと。衣食住をはじめ、技術・学問・芸術・道徳・宗教を含む。」である。国の歴史、現代にいたるまでの発展とサッカー文化の相関を考察する。

3. 考察および結果

【オーストラリア】特記すべき2つの取り組みがある。ワールドカップ出場と、国内サッカーリーグのシステム変化に対する取り組みである。共通して言えることとして、オーストラリア国民のサッカーに対する意識の変化がある。2つの大きな取り組みと、社会が白豪主義から多文化主義への移り変わり、国民のサッカーに対する考え方が根底から変わった。移民だけのスポーツから全国民のスポーツへと変化したのである。

【日本】1921年に大日本蹴球協会、現在の日本サッカー協会が設立され今日までいたるが、その歩みの間には、ベルリンの奇跡、デットマールクラマー氏の招聘、ドーハの悲劇、Jリーグの誕生、ジョホール・バルの歓喜など、多くの出来事がある。このような出来事と社会的情

勢は繋がっている。また戦争による影響も強く受け、戦争によってサッカー文化は低迷した。本来は自由な場であり公平なものでなければいけないスポーツを、戦争は簡単に壊してしまうということを日本国民は実感し、サッカーと国の結びつきを深く考えた。サッカーはホームタウン文化と健全なナショナリズムを涵養し、人・仲間・地域・国づくりに貢献したと言える。

4. 結論

【オーストラリア】移民がオーストラリアの文化や歴史を作った。またサッカーも移民が始め広めた。独自の方法で国民全員に受け入れられるようにしてきた。多文化主義への移行と共にサッカーが国民に定着した。国とサッカーのグローバル化が進み、オーストラリアだけのスポーツ文化を生み出したのである。この姿は、オーストラリアだけの独自の姿であり、サッカー文化が国の発展の基軸を表している。

【日本】サッカーは国の発展や変化により大きな影響を受けてきた。戦争による低迷、東日本大震災、原子力発電所崩壊による2度目の核の恐怖を味わった。しかしサッカーを通して感動、団結し悲しみから乗り越える力を得た。サッカーは復興の大きな助けとなったのである。そのことからサッカー文化と国の発展は相関していると言える。

5. 参考文献

- 1) 尾崎 正峰 (2006) オーストラリアにおけるサッカーの「プロ化」の動向と背景
- 2) 田宮 玲子 (2008) 多文化主義におけるスポーツの役割
- 3) Jリーグ公式サイト

<http://www.j-league.or.jp/100year/about/http://www.jfa.or.jp/info/inquiry/2011/11/post.html>